

おやつのじかん3 -ちょっとひとやすみ-

—習慣と言葉—

NO. 56



お父さんが「お母さん」と声をかけると、「ハイハイ」とお母さんがお茶を出してくる、なんて姿が昭和でした。最近では、そういう言い方をすると、いろいろなご意見があるので例え話にも出てこなくなりました。「ねえ」とお母さんが声をかけると、「ハイハイ」とゴミを出し行くお父さんの姿はどうなんでしょうね？ まあ細かいことはいいですか。とにかく、あ・うんの呼吸はお互いを過ごしやすく？するものです。そこまでではないにしろ、誰にでも直接言葉にしなくても分かり合える習慣があります。

子ども達の日常にも同じような場面がたくさんあります。「出かけるよ」の声かけで帽子を取りに行く。「ごはんだよ」の声かけで席に着く。かけられている言葉と行動が、当たっているけど、じつは違っていますよね。一つひとつに声かけをしなくても、お決まりの一連の流れとして習慣になっている証です。他にも習慣になっていることがあります。あんずの朝、登園してきてシール帳を持って、決められた机にシールを貼りに向かいます。「給食ですよ」と言われれば、スプーンやフォーク、お箸を入れてあるケースや袋を取りに行きます。これも直接の指示ではありません。

生活の流れの中で子どもにかけられる言葉は、たいていは行動を指示するもので、多くが繰り返され、習慣になっていることです。そこには帽子や道具のようにシンボルになるものが必ずあって、そのときに使うグッズでもあります。“こういうときには、こういうものがあって、これをする”というセットで“わかること”が増えているのです。

生活習慣を整えてくこと、つまり、同じような時間に同じようなことを繰り返し、同じ順番で、同じように声をかけて取り組んでいくことが、じつは、言葉の理解（『わかること』『わかる言葉』）を増やしていくことにつながっています。写真や絵カードを提示するよりも、自然で日常的で、
“同じ場面では同じような声かけを”“同じ順番で”と言われてしまうと、少し堅苦しさや違和感があるかもしれません。でも、自分自身の生活習慣を振り返ってみてください。ほとんどのことがルーティンになっています。特別なことではありません。

生活面のことが自分でできるようになるために毎日コツコツ働きかけていることが、じつは言葉の感度も高めているのだと思うと、頑張ってきた甲斐もありますね。少し間延びしていた関わりを、もう一度仕切り直すきっかけになるかもしれません。

さて、ここでひとつご注意を！ 大人も子どもも、お互い習慣になっているので、子どもの目の高さで声をかけることを少し忘れがちです。遠くから、子どもの名前を何度も呼んで、徐々に語気が強くなっていくよりも、数歩近づいて、しゃがんで、ひと声かけることのほうが、きっと感度は高いと思います。習慣になっている行動なら、一度スイッチが入れば、流れをこなしていけますね。あ・うんの呼吸に頼り過ぎずに、5回に1回くらいは丁寧に向き合ってみてください。新たな育ちの発見があるかもしれません。

あんずでもありますよ。「さっきのあれですけど…」「ああ、あれ終わりましたよ」「そうですか。ありがとうございます」って場面です。信頼関係なのか、言葉が出てこないだけなのか…。

最近ちょっと心配になってきました…。 (R3. 1) K

